編集後期

▼「現代宗教研究」第十六号をおとどけいたします。今回は、日蓮聖人第七百遠忌にあたり、日蓮聖人の根本精神であり一代の誓願でもありました〈立正安国〉の内容について特集をくみ、あわせて研究所としてとりくんできました研究および調査の概要を掲載しました。

▼八〇年代は、〈立正安国の時代〉であると考えられます。核戦争の脅威や軍備の拡大など戦争への足音が聞えてくる世情になりつつあり、人々の社会や生活への不満も深刻になっております。日蓮宗はもとよりひろく仏教界・宗教界が核廃絶をはじめとする平和の課題にどうこたえてゆくのかが今ほど問われている時はありません。それぞれの政治的見解や思想信条の立場からではなく、なによりも信仰を守り時代にいかす観点から、現代における平和を追究することが要請されているように思われます。

▼こうした時代的要請とともに信仰的要請から私たち日蓮宗徒に提示されているのが、〈立正安国〉の教えと実践にほかなりません。日蓮聖人は、釈迦仏・法華経に依拠し謗法を正すことによって、時代の問題状況ときり結びつつ社会の平和と人間の平安とも一体としてなしとげ、仏国土を破壊・破滅から守り浄めていくことに献身しました。この立正安国の信仰実践にとりくむことは、七百遠忌を第一歩とし七百五十遠忌をめざす日蓮宗の根本的な課題であり、日蓮宗としての信仰的・社会的役割を身證することではないでしょうか。

▼これまで〈立正安国〉あるいは「立正安国論」の内容については必ずしも充分にほりさげられてきたとはいいがたい面がありました。研究所では、研究例会で「立正安国論」の習学に一年間とりくみ、また公開研究講座を開いて「立正安国論」の内容把握につとめ、立正安国論と現代を問題視角にすえながら若干の研究を進めてきました。まだ不充分ですが、とりあえずその研究内容の一端を掲載することにいたしました。

▼小松邦彰先生の一文は、公開研究講座で発表された内容にもとづきまとめていただいたものです。つつしんで感謝の意を表するとともに、この一文が大方の指標となれば幸いです。

▼小誌は、研究所のいのちともいうべき研究誌です。また、研究発表の場でもあります。日蓮宗の内外に教化と研究にとりくむ研究者集団をきずいていくためにも、小誌への支援とご活用をお願いいたします。

（石川教張）